

25年7月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 6月20日～ 7月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight.D.I.

品目		25/7月	8月	9月
入荷動向	国産材製材品	6.3	12.5	37.5
	外材製材品	12.5	6.3	6.3
	その他			
販売動向	国産材製材品	25.0	43.8	50.0
	外材製材品	25.0	43.8	50.0
	その他			
在庫動向	国産材製材品	18.8	12.5	0.0
	外材製材品	25.0	18.8	25.0
	その他			

入荷は国産材製材品はプラス基調で推移、外材製材品はマイナス基調で推移。
販売は国産材製材品、外材製材品ともにプラス基調で推移。
在庫は国産材製材品は7月の増加が8月の減少を経て9月は横ばいに、外材製材品はプラス基調で推移。

(2) 価格動向 Weight.D.I.

品目		25/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	25.0	18.8	31.3
	柱角 KD12×3	18.8	25.0	31.3
	通し柱 12×6	8.3	8.3	16.7
	桁角	7.1	0.0	0.0
	母屋角	7.1	7.1	7.1
	タルキ	14.3	14.3	21.4
	間柱	25.0	31.3	37.5
	加工板	7.1	7.1	7.1
	ヌキ	12.5	6.3	12.5
	平割	6.3	0.0	6.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	6.3	18.8	18.8
	柱角 KD12×3	0.0	12.5	0.0
	土台角 10.5×4	18.8	25.0	31.3
	土台角 12×4	7.1	14.3	21.4
	通し柱 12×6	8.3	16.7	8.3
カマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	42.9	28.6	28.6	
米マツ割物	42.9	28.6	28.6	
北洋エゾマツタルキ	50.0	40.0	50.0	
北洋アカマツタルキ	20.0	10.0	20.0	

スギの柱材、通し柱、母屋、タルキ、間柱、加工板、ヌキはプラス基調で推移、桁は7月のプラスから8,9月ゼロに、平割りは7月のプラスから8月のゼロを経て9月にはプラスに。
ヒノキはKD10.5柱、土台、通し柱がプラス基調で推移、KD12柱は7月のゼロが8月プラスを経て9月はプラスに。
カマツ土台は横ばい、米マツ平角及び割物、北洋エゾマツタルキ及び北洋アカマツタルキは強保合ないし強含み。

モニターからのコメント

製材品荷動き・7月よりプレカット工場の稼働率上昇、国産材シェア増加のため引き合い多くなっている。

(入荷)・国産材は端境期に入り入荷は少なめ、アカマツ40×30は見通し不透明。・スギ乾燥材の製品中心大手メーカーに集中増加していない、WWが増、北米材は少ない。・防音工事でスギ動きあり、北洋材入荷少ない。国産材は季節要因で減少。プレカットの稼働率上昇、国産材シェアは増加で引き合い多い。・7月は記念市で増加、消費税アップや木材利用ポイントで需要増。・梅雨で原木不足。・荷動き横ばい。

(販売)・一部大手を除いて需要に一服感、夏に向け小出しで仕事が出てくる、大手は忙しそう。・品薄メーカーや乾燥材は良好、欧州材は苦戦、米加材は良好、北洋アカマツ高値安定。・米材・北洋材入荷少なく動きあり。国産材は年初より大きな販売増なし。・国産材は木材利用ポイントの影響がプレカット工場の注文やや増える。外材は為替の影響で単価上昇のため売り鈍る。・外材強し。国産材は丸太上がってきたので8月以降動きがあるかどうか。

(在庫・元落)・一部を除き低レベルでのバランスがとれている。・スギグリーン材は供給過多で在庫増、KD材は在庫少ない、北欧材中心に在庫増。・北欧材は高値契約のため生産意欲旺盛。・国産材が増えている。

製材品価格動向

スギ	<p>・スギは欧州材に比べ割安感出しており秋需に向け不足すると予想。柱角・構造材のKD材良好、間柱もww材の為替による上昇で代替進んでいる、グリーン材は構造材、羽柄材も荷動きない。・外材代替品としての角、柱は今後増加か?、加工板類は季節要因で適材減少し単価上昇か?、桁角、母屋は外材の代替にはなりにくく大きな変化なし。欧州材に比べ割安感あり、秋需に向け不足。・梅雨明けの素材単価上昇、需要増で価格上昇やむを得ない。小割、板、構造材ともKDに移行し、グリーン材の大きな単価上昇見込めない。・外材との関係で国産材に価格面で強気の動き、スギ価格は7月上昇。</p>
ヒノキ	<p>・ヒノキは梅雨期原木相場上昇、秋需に向け相場も高値傾向になる。・大壁工法のスギ、WWとの価格差あり需要増えない、真壁用途で材の動き良好。土台角はツガ注入土台の高騰で代替品として増加中。・秋需に向け高値傾向になる。グレードで単価差大きい。土台角はKDに少しずつ移行し、グリーン材の上昇は考えにくい。・本格的価格転嫁は、秋以降と予想。</p>
カラマツ	<p>・変わらず。</p>
米マツ	<p>・割物強含み。・為替、米国着工数増で入荷少なく価格上昇止まらない。・既に大幅に値上がっておりこれ以上は可能性低い。・価格7月も上昇。</p>
北洋エゾ	<p>・依然価格上がっている。</p>
北洋アカマツ	<p>・高値安定。・依然価格上がっている。</p>